桃五だより

No.592
（10月号）
2020.10.1

杉並区立桃井第五小学校
https://www.suginami-school.ed.jp/momo5shoubg/

コロナ禍での教室

教務主幹　田中　博司

学校が、新型コロナウイルス感染拡大防止に関する取り組みを始めて７ヶ月が過ぎました。この間、保護者の皆様には、本校の感染防止対策へのご理解、ご協力をいただき感謝しております。

さて、ウィズコロナでスタートした令和２年度も、早くも折り返し地点を迎えます。コロナ禍でのこれまでの教室の様子について、担任教師の目線でふりかえります。

学習面については、夏休みの短縮、月２回の土曜授業、行事の削減などにより授業時間を確保すると共に、授業計画の見直し、パワーアップタイムや家庭学習などの運用を行うことで、おおむね授業の遅れを取り戻すことができました。それでも、学び残しが見られる子供については、放課後補習、土曜補習での学習を行っています。

一方で、今回の休校措置やコロナ対策のために、残念ながら失ってしまったものもあります。子供たちが、教室で友達や先生と共に過ごし、共に学ぶ時間です。

７ヶ月前、日本中の学校が、一斉に休校をすることになりました。当時の教室は、クラス替えの前に、同級生との名残惜しい時間を送り始める矢先の出来事でした。１年間、同じ教室で過ごした友達や先生との突然の別れに戸惑う子供たちも多かったことと思います。私たち担任も同様です。ベテラン教員の私でさえ、かなりの寂しさを感じたのですから、初めて担任をもった若い先生たちや、異動を控えた先生たちの思いは尚更だったことと思います。休校前の最後の登校日、そして、その後どうにかできることになった修了式、卒業式で過ごした子供たちとの時間は、担任として、忘れることのできないものとなりました。

６月から再開した学校では、子供たちはマスクをしながらの学校生活を余儀なくされました。先生や友達との会話もこれまでのようにできません。表情が見えず、言葉を交わし合えない学校生活は、ソーシャルディスタンスのために離した座席以上に、人と人との距離を感じるものでした。

こうして、コロナウイルスでの学校の様子をふりかえると、人と人とがつながり合うこと、友達と一緒に教室での物語を紡ぐことが、学校教育の価値であったことに改めて気付かされました。それは、オンライン授業や家庭学習だけでは補えきれないものです。

教室には、友達と共に学ぶからわかる学びがあります。みんなで取り組むから感じられる喜びがあります。一方で、こうした人とのかかわりは、決していいときばかりではありません。時には、ぶつかったり、傷つけ合ったりしてしまうこともあります。けれども、人とのかかわり合いの中で学ぶことで、子供たちは、一日一日成長し、生きる力をつけています。

コロナ禍での社会生活の在り方やガイドラインが見直されつつあります。学校でも、感染防止対策と教育活動を両立させる局面に入りました。桃五小でも、手洗い、マスク、換気など、感染防止対策をしながらも、人とのかかわりを大事にできる学校の新しい生活様式を探っています。この一年の学校生活が、子供たちにとって実り多きものになるように願い、今年度の復路を歩んでいきたいと思います。

１０月の生活指導目標
安全に生活をしよう

２学期が始まり約１か月、疲れの出てくる時期です。こんな時には、思わぬ事故が起こりがちになります。オープンスペースや階段の歩行の仕方、室内での過ごし方についてもう一度確認をし、大きな事故や怪我がないようにしていきましょう。心を落ち着けて学校生活が過ごせるよう、声をかけていきます。